

＝ 案 内 図 ＝



【交通アクセス】

- 鉄道  
JR日豊本線 白杵駅より  
徒歩約15分
- 高速道路  
東九州自動車道 白杵I.C.より  
約10分



戦国の時より続く城下町

白杵

慶長五年（一六〇〇）、初代稲葉貞通が美濃（岐阜県）の郡上八幡から移封されて以来、十五代久通まで、およそ二七〇年間に渡り、稲葉氏がこの地を統治しました。

稲葉氏の居城であった白杵城は、十六世紀半ば、大友宗麟によって築かれた城を土台としています。丹生島城と呼ばれ、干潮のときは一か所だけ砂州ができて陸地とつながる、全国でも珍しい海城でした。明治になって周囲が埋め立てられるまで、城は海に浮かんでいたのです。



17世紀前半の白杵城下町

開館時間 9:00～17:00(最終入館は16:30)

入館料

区分	稲葉家下屋敷 旧平井家住宅	4施設共通券 白杵石仏・吉丸一昌記念館 野上弥生子記念館・稲葉家下屋敷
大人(高校生以上)	320円	1,090円
小人(小・中学生)	160円	540円

旧白杵藩主 稲葉家下屋敷 大分県白杵市大字白杵6番6  
TEL0972-62-3399  
白杵市産業観光課 大分県白杵市大字白杵72番1  
TEL0972-63-1111

旧白杵藩主 稲葉家下屋敷

（国登録有形文化財 旧稲葉家別邸）

旧平井家住宅

（大分県指定有形文化財）





## 施設内見取り図

### 旧稲葉家別邸

■国登録有形文化財

旧稲葉家別邸は、廃藩置県に伴って東京へ移住した旧藩主・稲葉家の白杵滞在所として、明治35年(1902年)に建築されたものです。

江戸時代、周辺一帯は白杵城の三の丸にあたり、評定所、米蔵などの重要施設や、重臣の屋敷が連なっていました。

稲葉家は、藩祖・貞通が関ヶ原の合戦後、白杵に移封されて以来、明治維新まで一貫して白杵藩を支配してきました。東京移住後も、旧国立第百十九銀行や旧白杵藩士族の会社「留恵社」への出資を行うなど、白杵の経済にも影響を与えました。そのため、白杵に来る機会は少



なくなかったと言われ、その滞在所として機能したのがこの旧別邸だったと言われます。

建築は近代に入ってからのもので、武家屋敷の様式を色濃くとどめた建築です。

### 土蔵・御門・外塀・東門

■国登録有形文化財

土蔵は、一時稲葉家の重要な資料を収めていたといわれ、その一部は文化財として取扱われています。

外塀は、別邸完成当初から「下見板張り」の姿を受け継いでいて、土塀の支柱と基礎部分には、地元産と見られる「灰石(阿蘇溶結凝灰岩)」が用いられています。特に基礎部分の石積は全高の3分の1を占め、独特の意匠を凝らしています。外塀と御門・東門は一体となって、別邸とその周囲の景観を形成しています。



### ■大書院

- 来訪者憩いの場
- 下屋敷の雰囲気にあった催物の開催

### ■大西の棟・西の棟

- 図書館、こども図書館と一体の活用
- 文化活動やコミュニティ活動等への開放

### ■庭園

- 野点、琴演奏他ライブ
- 竹宵、薪能等

### ■御居間の棟

- 来訪者の憩いの場

### ■台所の棟

- 来訪者の休憩、憩いの場
- イベント、文化教室

### 貸館使用料のご案内

施設の名称	時間区分	使用料
下屋敷本体 (大書院・御居間・台所)	1時間あたり	400円
西の棟・大西の棟	1時間あたり	300円

※使用については、準備・片付けの時間も含まれます。

### 大書院

■国登録有形文化財

最初に客を迎え入れる「表」空間としての機能を有する建物です。玄関が、表玄関(客用)と内玄関(家人用)に分けられたり、上の間には長押が回されたり、格式を重視する武家住宅の特徴を残しています。一時期、料亭として利用された時期もありましたが、外観を活かす形の活用であったため、全体的な構造にはおおきな変化はなく、白杵市内で現在も使用されている武家屋敷様式の建築としては最大級と言えるでしょう。

### 御居間棟・台所棟

■国登録有形文化財

いわゆる「奥」空間の中核になる建物です。稲葉家滞在中、通常は御居間棟で起居していたと考えられます。「居間」は当主の御座所として使用されていたと考えられ、床の間や長押等が武家屋敷の格式を伝えています。台所棟は、一部改修されているものの、昔の姿を今にとどめています。土間の吹き抜けも、かまどの煙で屋根裏をいぶすための工夫の一つです。

